

編 集 後 記

2018年度も終盤を迎え、皆様におかれましては教育・研究並びに臨床活動において多忙な日々をお過ごしのこととお察しいたします。本年度も、北海道医療大学歯学雑誌に論文等の投稿並びにお忙しい中、論文の査読をお引き受けいただきました先生方のご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

昨年2018年は、2月の平昌オリンピックで華々しく幕を切りました。羽生結弦選手のオリンピック連覇に代表される日本人選手の大活躍に日本中が熱狂しました。北海道においても、オリンピックに関わるホットな話題が相次ぎました。中でも、道産子出身者による“そだねー”ジャパンチームが成し遂げたカーリング初のメダル獲得の快挙は、北海道を大いに勇気づけたことでしょう。その一方で、9月には台風21号と北海道胆振東部地震が相次いで発生し、北海道内に大きな爪痕を残しました。これら自然災害により罹災された皆様には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

さて、本号では総説1編、原著論文4編、症例報告1編及び最近のトピックス2編の投稿をいただきました。巻頭は、う蝕制御治療学分野のTubayesha Hassan先生による矯正治療に用いられる接着材料に関する総説であり、近年の接着技術のめざましい進展が詳細に紹介されています。原著論文は、Enrique Ezra ZÚÑIGA-HEREDIA先生（歯科矯正学分野）、金田研郎先生（歯周歯内治療学分野）、石川昌洋先生（顎顔面口腔外科学分野）並びに赤沼正康先生（東苗穂にじいろ歯科クリニック）による報告です。また、症例報告は臨床口腔病理学分野のDurga PAUDEL先生から、最近のトピックスは各号に臨床に関わるホットな話題を継続して提供していただいている廣瀬知二先生（伊東歯科口腔病院）による報告です。いずれも各分野の若手、留学生或いは開業医の先生方の精力的なりサーチの成果が披露されており、今後の歯科医学のさらなる発展が期待されます。

現在、歯学会会長の坂倉康則先生のご尽力により、本学の他学部（リハビリテーション科学部等）からの歯科医学関連のトピックスや多職種連携医療の展開について原稿を募る計画が進行中です。これらは、本誌をさらに活性化するとともに、歯科医学の臨床・研究領域のさらなる拡大とそれらの重要性を広く各医療分野に浸透させていくに違いありません。次号（第38巻1号、2019年3月31日締切）以降も歯学雑誌のさらなる充実に努めていきたいと思っておりますので、今後ともご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。新たな年号を迎える2019年が皆様にとって幸多きものになりますようお願いいたします。（石井 記）

次号（第38巻、第1号）の発行は2019年6月30日です。

投稿原稿募集の締め切りは2019年3月31日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は、2018年第37巻、第2号の巻末をご参照ください。